

安全

[詳細は、当社Webサイトをご覧ください。](#)

基本的な考え方

JSRグループは、次に示すレスポンシブル・ケア(RC)の基本方針のもとに、あらゆる事業活動を推進しています。

- ①事業活動に伴うリスクの把握と対策の実行により、社員・地域社会の安全確保と環境保全、持続可能な地球環境への貢献に努めます。
- ②事業活動に必要な法規制などの情報収集と確実な展開により、法令および自主規制の遵守に努めます。
- ③安全・健康・環境に配慮した製品開発とその情報提供により、製品安全に努めます。

安全マネジメントシステムは各社ごとに整備していますが、JSRグループ共通の「安全の考え方」と「安全レベル評価システム」を展開することで、グループ全体の安全レベル向上に努めています。

JSRグループの安全活動

JSRグループでは、各社が安全マネジメントシステムを整備し、各社のリスクに応じた安全活動を推進しています。

JSRグループ共通の安全活動として、下記6項目があり、最新情報の共有や定期モニタリングを行い、グループ全体の安全レベル向上に努めています。

- ① JSRグループ共通の安全の考え方の浸透
- ② 安全レベル評価を活用した安全活動の推進
- ③ 重要リスクの一元管理と事故未然防止
- ④ 事故・災害の一元管理と再発防止
- ⑤ JSR本社環境安全監査の展開
- ⑥ ベストプラクティスの活用

JSRグループ共通の安全の考え方の浸透

JSRグループでは、2023年に各社共通の安全の考え方を構築し、全従業員への浸透を図っています。浸透の程度は、eラーニングを利用して、定期的にモニタリングしています。また、従業員の理解を深めるため、2025年にeラーニングの音声化も導入しました。

該当する法規制やリスクの程度などは国やグループ各社によって異なりますが、この安全の考え方は、JSRグループ共通のものであり、安全活動の拠り所となります。

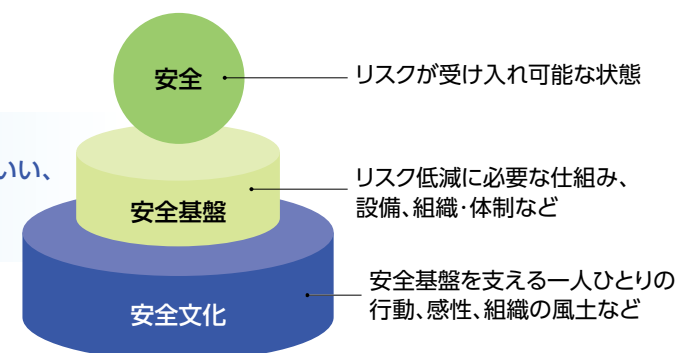
安全の考え方のモデル

安全とは、リスクが受け入れ可能なレベルにある状態をいい、安全基盤と安全文化に支えられ、確保されます。

これからも、従業員一人ひとりへの浸透を継続し、安全の考え方をベースにした安全活動の運用・定着を図っていきます。

安全レベル評価を活用した安全活動の推進

JSRグループでは、2023年度に安全の考え方をベースとし、安全基盤と安全文化を数値化した安全レベル評価システムを構築し、安全活動に活用しています。各社・各組織の安全レベルを可視化することで、強み・弱みを生かした安全活動を推進しています。



安全

この評価システムは、製造および研究開発を所有する各社に展開しており、各社共通の安全レベル目標を設定しています。安全レベルは5段階に分類され、最終目標は安全ステージ「3」ですが、2029年度には安全ステージ「2+以上」が対象拠点の60%以上を目指しています。2025年度は安全ステージ「2+以上」は対象拠点の24%でした。

これからも、この評価システムを活用した安全活動の運用・定着を図り、グループ全体の安全レベル向上と事故・災害の撲滅に努めます。

安全レベル目標と実績

安全ステージ		安全ステージ別拠点割合				
		1	1+	2	2+	3
目標	最終	—	—	—	—	100%
	2029年度	—	—	—	60%≦	—
実績	2025年度	0%	28%	48%	24%	0%

その他、安全活動

JSRグループでは、JSR本社環境安全監査を国内外の製造・研究開発拠点に展開しています。2025年度は国内9拠点、北米3拠点について、同一基準で監査を行いました。監査で抽出した課題は、各拠点特有のもの、グループ共通のものがあり、計画的に改善を進めています。

JSRでは、2014年に発生した重大労災の風化防止を目的に、毎年7月23日を「JSR安全の日」と定め、四日市工場で式典と環境安全活動フォーラムをWebを併用し開催しています。2025年度の式典では、トップ訓示、安全基本理念および安全活動の紹介に加え、1994年に起きたブタジエンボンベ



北米拠点(JSR Micro, Inc.)での監査の様子

事故の再現動画(2017年制作)を参加者で視聴し、爆発事故の怖さを再認識しました。また、環境安全活動フォーラムでは、国内2拠点、海外1拠点(韓国)の優れた活動の紹介がありました。ベストプラクティスとして各拠点の取り組みの参考としています。



2025年度 JSR 安全の日の様子
写真上段は、堀社長(左)、高橋環境安全担当役員(右)
写真下段は、環境安全活動フォーラムの発表者(JSR 四日市工場(左)、JSR BiRD(中央)、JSR Micro Korea(右)の代表者)



環境安全活動フォーラムの後に堀社長、高橋環境安全担当役員、発表者たちとの記念撮影